

シリーズ 全国唯研の先達に聞く

巻頭言

竹内章郎

この「シリーズ」の直接のきっかけは、全国唯研の毎年の大会二日目お昼のラウンドテーブルの企画として、全国唯研で活躍していた(現にしている)先輩会員に、若い頃からの様々な経験や全国唯研との関わりや学問的関心の深化などについて、分科会や研究発表ほどのかたぐるしさなしに気楽に話をし、後輩会員とのフランクな交流の場をもとうという企画でした。そして 2014 年から始めたこの企画で、幾人かの全国唯研委員長経験者を囲んで有意義な場を設けることができました。しかし大会を反省する委員会で、そこで話された重要なお話や興味深いコミュニケーションを、その場限りにするのはもったいないので、きちんとインタビューをして記録に残そうということになり、この「シリーズ」に至ったわけです。

何事についても、歴史的経緯をきちんと理解することを嚆矢として、過去との対話は将来の発展を期する上でも非常に大切なことは言うまでもありません。1978 年に創設され、2001 年度にはその目的を「唯物論の研究および現代の社会と文化に関する批判的研究の発展と交流」へと若干変更した全国唯研も、直接の継承・接続関係はないものの、戦前の唯物論研究会や戦後の日本唯研や民科哲学部会等々の経験を踏まえている面があり、更に言えば長い唯物論の歴史やこれに関わる諸論争なども全国唯研の重要な財産になっているはずですが、しかしこれらの歴史的蓄積は、全国唯研でも団塊の世代くらいまでは何とか伝承されてきましたが、高度成長期以降の世代からしてみるといまいち距離のあることのようなのです。

こうした反省も踏まえてこの「シリーズ」企画でもあります。この企画を開始して悔やまれるのは、もっと早い時期からやっておけばよかったということです。初代委員長の湯川和夫さんを始め、歴代委員長だけでも既に、芝田進午さん、岩崎允胤さん、島田豊さん、石井伸男さんが亡くなられており、これらの方々をはじめ、多くの諸先輩方の貴重なお話をもっと伺っていれば、それを多くの後輩会員に伝えることができたのに、という思いは禁じえません。ですので、これからはテンポを上げてこの「シリーズ」に取り組みたいと考えております。

ただこの「シリーズ」は内容的には、厳密で統一

的な規定に則って企画されてはおりません。その内容は、インタビュアーの後輩会員の姿勢や登場して頂く先輩会員方の個性に任されておりまして、それぞれ自由なお話・自由なコミュニケーションになっていきますので、この点をご承知おき頂きたいところです。